

令和8年〔前期〕
保育士試験 及び 地域限定保育士試験
問題用紙

保 育 原 理

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

【注意事項】

各問題の正答数は、問題文中に示される。

問題文中に示された正答数と異なる数を解答すると、不正解になる。

【例題 1】

問 1 次のうち、〇〇に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ……
- 2 ……
- 3 ……
- 4 ……
- 5 ……

正答が「2」である場合は、マークシートの「②」を塗りつぶしていれば正解になる。



問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ③ ④ ⑤

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。



問題番号	解 答 番 号
問 1	① ● ● ④ ⑤

【例題 2】

問 2 次のうち、〇〇に関する記述として、正しいものを3つ選びなさい。

- 1 ……
- 2 ……
- 3 ……
- 4 ……
- 5 ……

正答が「2」「3」「5」である場合は、マークシートの「②」「③」「⑤」を塗りつぶしていれば正解になる。



問題番号	解 答 番 号
問 2	① ● ● ④ ●

問題文中に示された正答数と異なる数を塗りつぶすと不正解になる。



問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ⑤



問題番号	解 答 番 号
問 2	① ② ● ④ ●

解答用紙に「記入上の注意事項」が記載されているので併せて確認すること。

問1 次のうち、「保育所保育指針」第5章「職員の資質向上」の一部として、正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 施設長は、保育所の教育課程や、各職員のキャリアパス等を踏まえて、体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員の勤務体制の工夫等により、職員が計画的に研修等に参加し、その専門性の向上が図られるよう努めなければならない。
- B 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる。
- C 保育所においては、当該保育所における保育の内容や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から中堅職員までの職位や勤務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成しなければならない。
- D 保育所全体としての保育の質の向上を図っていくためには、日常的に職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境が重要であり、職場内での研修の充実が図られなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問2 次のうち、「保育所保育指針」に照らし、子どもの最善の利益を考慮した保育として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 暑がる子どもを、服を脱がせて裸のまま放置する。
- B 泣き続ける子どもを長時間にわたり、関わりことなく放置する。
- C 子どもを無視したり、拒否的な態度を示したりする。
- D 保育士の指示に従わない子どもに大声で指示したり、叱責したりする。
- E 子どもの制作物を、他の子どもの前で失敗例として紹介する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	×	×	○	×
2	×	○	×	×	○
3	×	×	○	×	○
4	×	×	×	○	×
5	×	×	×	×	×

問3 次のうち、保育や教育に関わる法令についての記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 「こども基本法」において、「こども」とは、心身の発達の過程にある20歳未満の者をいう。
- B 「学校教育法」において、幼稚園に入園することのできる者は、満3歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とされる。
- C 「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」において、「子ども」とは、小学校就学の始期に達するまでの者をいう。
- D 「教育基本法」において、すべての国民は、ひとしく、その能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されないとされる。
- E 「児童福祉法」において、「児童」とは、満18歳に満たない者をいう。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	○
2	○	○	×	○	×
3	○	×	○	×	×
4	×	○	○	○	○
5	×	×	×	○	○

問4 次のうち、保育に関わる日本の制度についての記述として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小規模保育事業において、3歳以上児を受け入れることができない。
- 2 認可保育所は、保育短時間認定を受けた子どもを8時間を超えて預かることができない。
- 3 保育所・認定こども園等を利用するすべての3歳以上児の保育料が給食費も含め、無償化された。
- 4 満3歳以上で、保育を必要とする子どもは「2号認定」となる。
- 5 すべての認可保育所は13時間以上の開所が義務付けられている。

問5 次のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」1「保育所保育に関する基本原則」の一部として、誤ったものを1つ選びなさい。

- 1 保育所は、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第39条の規定に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。
- 2 保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。
- 3 保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。
- 4 保育所は、幼児教育と保育の一体化という観点から、子どもを教育する機関としての役割を果たし、小学校と密接に連携し、円滑な接続並びに一貫した教育を提供しなければならない。
- 5 保育所における保育士は、児童福祉法第18条の4の規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものであり、その職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならない。

問6 次のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」(2)「保育の目標」の一部として、誤ったものを1つ選びなさい。

- 1 十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- 3 音楽、造形、言葉という多様な刺激のある環境の中で、幼児期の終わりまでに育つべき非認知能力の発達を促すこと。
- 4 生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。
- 5 保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を生かして、その援助に当たらなければならない。

問7 次の保育所での【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

実習生のMさんは、5歳児クラスの子どもたちと園庭で鬼ごっこをすることになった。Mさんが鬼になることが決まり、走りだそうとした瞬間、KちゃんがMさんのシャツの裾を引っ張っている。Kちゃんは、小さい声で「わたし、鬼ごっこやりたくない」とMさんに伝える。Mさんはしゃがんで、Kちゃんと目を合わせて、何をしたいのかを尋ねると、「鉄棒をしたい。鬼ごっこはやりたくない」とはっきりという。

Mさんは、Kちゃんに「鬼ごっこは、なんでやりたくないの?」と尋ねると、Kちゃんは「だって、捕まえられるから」と答えた。Mさんは、鬼ごっこが先に決まっていたことから、Kちゃんに「鬼ごっこのほうが先に決まっていたから、先生は鬼ごっこの後に鉄棒をしたいな。Kちゃんも、先生と手をつないで鬼と一緒にやろう」と誘うと、Kちゃんも納得した様子でうなずいて、手をつないで一緒に走る。その後、自然にKちゃんの手は離れたが、Kちゃんが楽しそうに鬼ごっこをしている様子も見られた。

昼食の時間になり、保育室に戻る際に、園庭の隅でつまらなさそうに座っているKちゃんに気付いた。Mさんは、「Kちゃん、そろそろお部屋に入ろうね」と声をかけた。

【設問】

次のうち、「保育所保育指針」に照らし、Mさんの振り返りとして、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 鬼ごっこに終始してしまったが、鉄棒をしたいという、Kちゃんの思いを受け止める必要があった。
- B Kちゃんも鬼ごっこをすることにしたのだから、やりたくないと言い出したことに対し、「自分勝手なふるまいだ」と伝えるべきだった。
- C Kちゃんは、その後鬼ごっこを楽しんでいた様子だったのだから、「鬼ごっこはやりたくない」というのは大人の気を引きたかっただけなのではないか。
- D 園庭の隅に座っているKちゃんのことにもっと早く気づき、声をかけるべきだった。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	×	×

問8 次のうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」3「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」エ「言葉」の一部として、正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを言葉で正しく表現する。
- B 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- C 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- D 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- E 思ったことや考えたことを伝えるために、文字を書けるようになる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	×	×
2	○	×	○	×	○
3	×	○	○	○	×
4	×	○	×	○	○
5	×	×	○	×	×

問9 次のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」に照らし、保育の過程や子どもに関する記録を作成する意義として、不適切なものを1つ選びなさい。

- 1 子どもの姿が予想と異なった場合、保育を計画通りの展開に戻すため。
- 2 子どもが興味や関心をもっていることや、何につまずいているかを明確にするため。
- 3 指導計画に基づく保育の内容を見直し、改善を図るため。
- 4 子どもの生活や遊びにおける保育士等と子どもとの多様な相互作用の様子を明らかにするため。
- 5 不適切な養育の早期発見や児童虐待の対応における資料となることがあるため。

問 10 次の（a）～（d）の下線部分が適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

（a）私立幼稚園の始まりは、江戸時代に幼児教育を担ってきた寺子屋である。一方、最初の官立幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園において、（b）初期にはフレーベル主義に基づく幼児教育が行われた。1880年代中頃まで幼稚園は、（c）富裕な家庭の幼児が通うことが多く、全国的な普及は進まなかった。1899（明治32）年6月、幼稚園の保育目的、編制、組織、保育内容などに関して国として初めて基準を定めた（d）「幼稚園保育最低基準」が文部省令として公布された。

（組み合わせ）

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

問 11 次の文は、ある国の保育についての説明である。正しい国名を1つ選びなさい。

1980年代後半に幼保一元化が達成され、すべての保育施設が教育省の管轄下に置かれている。「子どもの学びの成果」を主軸とする全国で統一されたカリキュラムであるテ・ファリキと、それに基づく評価の仕組みがある。

- 1 オーストラリア
- 2 イタリア
- 3 ニュージーランド
- 4 スウェーデン
- 5 フランス

問 12 次のうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」2「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」ア「健康」の一部として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。
- 2 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- 3 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。
- 4 様々な食品や調理形態に慣れ、好き嫌いなくなんでも食べられるようにする。
- 5 身の回りを清潔にし、衣服の着脱を自分でする。

問 13 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

Rちゃん（1歳11か月、女兒）は、この4月にK保育所の1歳児クラスに入所した。休みがちではあるが、少しずつ保育所の生活に馴染んできている。

7月に入って1歳児クラスでは、水遊びが始まった。クラスの子どもたちは保育室で水着に着替え終え、準備運動をしているが、Rちゃんは座りこんだり寝転んだりしている。子どもたちが順にテラスに出て、ビニールプールに入ったりじょうろに水を入れたりして水で遊び始めても、Rちゃんは保育室で寝転んだままである。担当保育士が「一緒にやろう」と声をかけると、Rちゃんが泣き出したので、ひざに抱き上げて少し落ち着いたところでテラスに行った。友達がビニールプールに入っている様子を見せても、Rちゃんは担当保育士にしがみついて「いや!」と硬い表情で強くいう。この日は、Rちゃんは水遊びをしなかった。

【設問】

次のうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」2「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」、第4章「子育て支援」に照らし、Rちゃんと保護者への担当保育士の対応として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 今回の活動では安心して遊び始めることができない気持ちを受け止めて、Rちゃんのやりたい遊びを一緒に探す。
- B 遊び始めると気持ちも切り替わるかもしれないので、泣いてもビニールプールにRちゃんを座らせる。
- C みんなと同じ活動を経験することが大事なので、友達と一緒に水遊びをするようにRちゃんに働きかける。
- D 水に慣れるために、家庭で毎日練習してくださいと保護者に伝える。
- E 保護者に、今日のRちゃんの姿を伝えるとともに、家庭での遊びの様子を聞く。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	×	×	○	×
2	○	×	×	×	○
3	×	○	○	×	○
4	×	○	×	○	×
5	×	×	○	×	○

問 14 次のうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」1「乳児保育に関わるねらい及び内容」ア「健やかに伸び伸びと育つ」の一部として、正しいものを**3つ**選びなさい。

- 1 複数の保育士との関わりを保障した環境の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。
- 2 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。
- 3 授乳の時間を定期的に定め、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。
- 4 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。
- 5 おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。

問 15 次の保育所での【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

Nちゃん（2歳0か月、女兒）の母親から担当保育士へトイレット・トレーニングについての相談があった。母親同士の話から同じクラスにおむつをはずし始めた子がいることを知り、Nちゃんの母親はトイレット・トレーニングを意識し始めたとのことである。早速、自宅でトイレに誘ってみたが、Nちゃんは「いや！いけない」と言ってトイレに行こうとせず、別の日も誘ってみるが、同様の状況が続いており、Nちゃんの排泄の自立をどのように進めていけばよいのか悩んでいる、とのことであった。

【設問】

次のうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」2「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」、第4章「子育て支援」1「保育所における子育て支援に関する基本的事項」に照らし、保育士の対応として、適切なものを**3つ**選びなさい。

- 1 排泄の自立は家庭で進めるべきものなので、保育所では対応できないと母親に伝える。
- 2 母親の悩みに耳を傾け、思いを受け止める。
- 3 保育所でのNちゃんの排泄の状況を伝え、排泄の自立に関わる取り組みの見通しを母親に伝える。
- 4 保育所でトイレット・トレーニングを始めるまでは、家庭では進めないよう母親に伝える。
- 5 排泄の自立につながる取り組みを始める目安や、いつから開始するかは個人差が大きいことなど、保育所としての基本的な考えをクラス便りに載せる。

問 16 次のうち、「保育所保育指針」第 1 章「総則」 3 「保育の計画及び評価」(2)「指導計画の作成」に照らし、障害児保育に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを 1 つ選びなさい。

- A 保育所は、全ての子どもが、日々の生活や遊びを通して共に育ち合う場であるため、一人一人の子どもが安心して生活できる保育環境となるよう、障害や様々な発達上の課題など、状況に応じて適切に配慮する必要がある。
- B 保育所では、障害のある子どもを含め、全ての子どもが自己を十分に発揮できるよう見通しをもって保育することが重要であり、個別の計画を作成する必要はなく、障害のある子どもの指導計画はクラス等の指導計画に含めて作成する。
- C 障害や発達上の課題のある子どもの理解と援助は、子どもの保護者や家庭との連携が大切であり、連携を通して保護者が保育所を信頼し、子どもについての共通理解の下に協力し合う関係を形成する。
- D 保育所では、障害のある子どもを含め、一日の生活のリズムや在園時間が異なる子どもが共に過ごすことを踏まえ、活動と休息、緊張感と解放感等の調和を図るよう配慮する必要がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×

問 17 次のうち、障害のある子どもへの対応において保育所と児童発達支援センター等との連携・協働のあり方に関する記述として、適切なものの組み合わせを1つ選びなさい。

- A 保育所と児童発達支援センター等の関係機関は、定期的に、又は必要に応じて話し合う機会をもち、子どもへの理解を深め、保育の取り組みの方向性について確認し合うことが大切である。
- B 子どもが保育所と児童発達支援センター等を併行利用している場合、児童発達支援センター等は必要に応じて保育所における子どもへの支援をバックアップしていくことが重要である。
- C 児童発達支援センター等から地域の保育所に移行する際には、発達支援の連続性の観点から、それまでの支援内容を共有する際に、保護者の同意は必要ない。
- D 子どもが就学する際には、就学先の学校での教育内容を最大限尊重するために、学校から問い合わせがあった場合のみ保育所と児童発達支援センター等との間で連携して行った支援内容を伝える。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問 18 次のうち、保育所を利用している保護者に対する保育士等による子育て支援に関する記述として、適切なものの組み合わせを1つ選びなさい。

- A 送迎時には、その日の子どもの姿を肯定的な表現で伝えたり、身近な話題から会話を広げるなどして、相互のコミュニケーションを図ることが大切となる。
- B 保護者から悩みや不安を聞いた際には、その場ですぐに解決方法を提案することが求められる。
- C 理不尽な要求を繰り返す保護者に対しては、傾聴といった関わりを続けることが求められ、要求が次第にエスカレートし、攻撃行動が示された場合も保護者に寄り添うことが大切となる。
- D 掲示物やお便りなどを通して、保育所の保育方針、保育のねらいや子どもの活動の様子を積極的に発信し、保護者と共有することが大切となる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B D

問 19 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

1 か月前にX保育所へ転園してきたFちゃん（5歳、女兒）は、両親共に外国籍である。両親は日本語が得意ではなく、保育士からの連絡事項も理解が難しいためか、「わかった、わかった」とあいまいな返事をするなどコミュニケーションが十分に取れないことがある。一方、Fちゃんの両親からは、入園当初から園生活について保育所に強い要望があり、「食べられないものがあること」や「肌を見せないで着替えさせてほしい」といった、自分たちの文化や生活習慣を守りたいという内容だった。

【設問】

次のうち、「保育所保育指針」第4章「子育て支援」に照らし、保育士の対応として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- A 日本の保育所に通園している以上、Fちゃんだけ個別な対応は行えないことを両親に伝え、保育所の方針に従ってもらう。
- B 両親の要望を踏まえ、クラス担任だけではなく職員間で情報共有し、共通の対応方針を考える。
- C Fちゃんは日本語の習得が早そうなので、両親への連絡は基本的にFちゃんを通して行う。
- D 「要望がこれ以上増えるようであれば対応できないので転園してもらいたい」と、Fちゃんの両親に伝える。
- E 必要に応じて通訳や翻訳機などを活用し、両親が連絡事項を理解できるよう工夫する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	○	×
2	○	○	×	×	×
3	×	○	×	×	○
4	×	×	○	○	×
5	×	×	○	×	○

問 20 次の表は、令和 5 年及び令和 6 年の保育所等数と利用児童数を示したものである。この表を説明した記述として、正しいものを 2 つ選びなさい。

表 保育所等数と利用児童数の状況

		保育所等数	利用児童数
令和 5 年	保育所	23,806 か所	1,918,042 人
	幼保連携型認定こども園	6,794 か所	637,893 人
	幼稚園型認定こども園等	1,477 か所	66,876 人
	特定地域型保育事業	7,512 か所	94,524 人
	合計	39,589 か所	2,717,335 人
令和 6 年	保育所	23,561 か所	1,872,703 人
	幼保連携型認定こども園	7,126 か所	661,188 人
	幼稚園型認定こども園等	1,602 か所	73,922 人
	特定地域型保育事業	7,516 か所	97,245 人
	合計	39,805 か所	2,705,058 人

出典：こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ（令和 6 年 4 月 1 日）」（令和 6 年 8 月 30 日発表）

- 1 令和 5 年と比較して、令和 6 年の保育所の利用児童数は増加している。
- 2 令和 5 年と比較して、令和 6 年の幼保連携型認定こども園の利用児童数は増加している。
- 3 令和 5 年と比較して、令和 6 年の幼稚園型認定こども園等の数は増加しているが、幼稚園型認定こども園等の利用児童数は減少している。
- 4 令和 5 年と比較して、令和 6 年の特定地域型保育事業の数は増加しているが、特定地域型保育事業の利用児童数は減少している。
- 5 令和 5 年と比較して、令和 6 年の保育所の数は減少しているが、保育所等数の合計は 200 か所以上増えている。